

ごあいさつ



芳川豊史教授

みなさま、こんにちは。名古屋大学呼吸器外科教授の芳川豊史です。

名古屋大学呼吸器外科教室は、約 40 年前に胸部外科教室誕生とともに産声をあげましたが、大学の講座としては今年で 10 年目になる教室です。現役の教室員数は、本年 60 名を越え、東海中部地区では最も大きな呼吸器外科教室の一つです。2021 年には、福井高幸先生が愛知医科大学呼吸器外科の教授に、細野祥之先生が岡山大学薬理学の教授に栄転されるなど、同門からのおめでたい話が相次ぎました。今後も、名古屋大学の基本理念である自由闊達な学風が継承され、多くの人材と業績を輩出していただければと思います。

現在、大学の医局は、スタッフ 7 名、医員兼大学院生 4 名、後期研修医 1 名ですが、教授以外のスタッフの年齢は 45 歳以下と非常に若いチームで、大学の使命である、臨床・研究・教育の 3 本柱を軸に日々活動しております。

臨床におきましては、2021 年の年間全身麻酔手術は 420 例で、内訳は、原発性肺癌 273 例、転移性肺腫瘍 52 例、縦隔腫瘍 42 例で、手術数も肺癌症例数も過去最多でした。単孔式手術を含む胸腔鏡手術は 340 例(全症例の 80%)でした。そのうちロボット支援下手術は 125 例で、累積症例も 300 例を超えました。これまでにプロクターを 4 名輩出し、2022 年からはメンター施設にも仲間入りとなりました。これまで通り、大学病院ならではの困難な拡大手術を行うとともに、低侵襲手術にも積極的に取り組んでいきたいと思っています。また、慢性呼吸不全に対する最後の砦の治療としての「肺移植」についても、2021 年末には名大病院の医療倫理委員会でも承認いただくなど、着々と準備が進んでおります。研究におきましては、外科医が行う研究として、日々の臨床における「気づき」をもとに、「Clinical Question」に答えるような研究を行っております。また、3 次元画像、手術変形、脱気変形、手術シミュレーションなどのキーワードをもとに、[将来の手術ナビゲーションを目指した研究も行っており、少しずつその成果を発表しております。](#)

教育におきましては、医学生から研修医、そして若手呼吸器外科医に至るまで、多角的な観点から、手作りの教育活動を行っております。その成果の一つなのかもしれませんが、新入局員数が 2021 年は 8 名(うち女性 3 名)に達しました。この 3 年間で 17 名であり、呼吸器外科単独の教室としては胸を張れる数かと思います。入局は、呼吸器外科を専攻する医師のチームの一員になってもらう機会、われわれは、横方向かつ双方向の交流を図ることを第一に考えております。若手医師の先生方には、自分にあった呼吸器外科医像をもっていただき、それぞれにあった研鑽を積んでほしいと思っております。教室としては、多様化する社会の中で、さまざまな希望や考え方をを持った若手医師を受け入れ、個人個人にあったトレーニングのもとに、個性豊かな一人前の呼吸器外科医を育てるという方針で、今後も進めていきたいと思っています。

さらに、悲願でありました、「名古屋大学での肺移植」の準備が始まりました。現在は、ワーキンググループが発足したところですが、病院全体の協力体制を確立し、脳死肺移植実施施設申請のための準備を進めております。実臨床としては、すでに、脳死肺移植待機患者を含む 10 名以上の肺移植患者さんを名古屋大学で日々管理しておりますので、真の意味での地域の需要にあったチームになることができるように今後も精進したいと思っております。

最後になりましたが、本年も、名古屋大学呼吸器外科を中心として、20 を超える関連病院の同門一同が力を合わせて、より良い呼吸器外科医療を確立すべく、日々努力していきたいと存じます。今後ともよろしくお願い申し上げます。